

自己評価結果公表シート

2022年度

1、法人理念

三快五感の子育て

- 【三快】 よく食べ(快食) よく遊び(快遊) よく眠る(快眠)
- 【五感】 目 目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子
- 耳 耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子
- 鼻 鼻を利かせ 善悪をすどく感じる子
- 口 舌を生かし すいも甘いも理解する子
- 手 手を使い なんでもよく体験する子

2、願う子どもの育ち

健康で明るい元気な子

不思議を探し、発見をいっぱいする子

うれしい時、かなしい時、人の気持ちがわかる子

3、教育保育方針

園内にある「まいまい山」は小動物や野鳥、昆虫が子どもたちを迎え入れてくれています。四季を感じられるたくさんの自然に囲まれて、子どもたちは小さな「命」に触れながら、自らの「命」を実感します。

子どもは一人ひとり成長の段階も、興味を持つことも様々。本園では、生きる力の源である意欲や自信を、一人ひとりの子どもと丁寧に関わることで育みます。

乳幼児期の子どもたちにとって「生活＝教育＝遊び」です。子どもの発達に合わせた遊びの環境を充実し、豊かな遊びの中で子どもが主体的に活動に取り組むことを大切にします。

4、「子どもの育ち」のために

- ・ 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- ・ 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていける。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていける。
- ・ みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- ・ 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- ・ 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていける。
- ・ 年齢に応じた基本的な生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均(3点満点)
I 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え 等	2.23
II 認定こども園教育・保育要領	第1章 総則	2.09
	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	2.11
	第3章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項	2.07
III 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していること等の理解 等	2.33

自己チェック評価表

	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	視点		
	1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。 4、保護者との連携は十分に取られていたか。 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。 等		
個人評価	<ul style="list-style-type: none"> 自分のクラスだけでなく、幼児全体を見るように心がけた サライさんのお話を聞いて、子どもたちの姿を想定しながら環境構成をすることができた 保護者とのコミュニケーションを大切にし、必要に応じて子どもの様子を共有したり、援助方法を考えたりと、家庭と園の連携を心がけた 園児個々の発達段階を理解し、玩具の難易度を幅広く取るように心がけながら用意した 日常生活の中で、友だちに優しく接したり、食べる意欲があったり、靴下を脱ごうとした時なども良い長所として認め、十分に言葉で褒めたり、マスク生活で伝わりにくい時は抱きしめることもあった 	<ul style="list-style-type: none"> 畑(栽培物)をもっと大事にしたい。 定期的に教育課程や指導計画を見返して、日々の保育の計画を立てればよかった 子どもたちの遊びの見方を変える意識をしたが、思ったようにできないことも多かった 保護者との連携をとることはできていたが、保護者の困っていること、悩みに上手く寄り添うことができなかった 今年度は個別で配慮が必要な子が多かったため、成長発達や変化に合わせてどう対応していくなど、関わり方や声のかけ方を変えていくなどの工夫が必要となった 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外もコーナーのように充実させていきたい 支援が必要な子に対してのはたらきかけについて更に具体的な話をたくさんして、丁寧に関われるようにしたい 環境は室内の装飾や室内外の玩具や遊具だけではなく、保育者も子どもにとっては重要な環境の一部のため、保育者として引き出しを沢山持てたら良いと思う クラスの職員はもちろん、主任、給食の職員とその都度確認を十分に行っていく 個々の姿を捉えた上で、より良い環境の提供や適切な関わりをするためにも、遊び相手にならず、フットワークを軽く持ち、子ども全体を把握し、はたらきかけられるような姿勢でいたいと思う
	1、保育教諭等の中で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の中で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成(物の配置等を含め)適切だったか。		
クラス運営評価	<ul style="list-style-type: none"> 持ち上がりだったこともあり、個々を把握し一人一人に合った援助ができた。 様々な環境を考え、楽しい保育を意識した。 主幹や副園長に計画や授業の相談を適宜することができ、数週間や1か月に一度クラスについて副担任と話し合う時間を確保できた クラスリーダーを主体に、子どもの成長に合わせて環境設定をしたり、関わり方や困り感などを相談し合える関係性を作ることができ、話し合いをしたり共有することで職員同士の連携がとれていたことがよかったですと感じた 	<ul style="list-style-type: none"> 行事(活動)の余韻をもっとじっくり楽しみたい 環境認識の記録をその都度とらなかつたため、詳細に残すことができなかった クラスでの話し合いがなかなかできなかったが、各自クラスを良くしていこうという気持ちは持っていた クラスリーダーとして意見を伝えることが難しかった 	<ul style="list-style-type: none"> 余裕をもって保育の計画をする 計画から実践、反省まで記録を残す クラスの職員全員が揃って話し合える時間をもう少し確保したい 暑い日、寒い日の保育では、低年齢児または歩行していない乳児などは室内で過ごしても良いのではないかと感じた日もあった。0歳児には何を大切に保育をするべきかを考えていけたら良いと思う
	視点		
	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域の関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。 等		
園全体評価	<ul style="list-style-type: none"> 感染症により予定していた行事を中止・縮小したが、概ね子どもたちの育ちを優先した教育計画が実施できた。 研修会もオンライン配信等を有効活用し、昨年度よりも充実した内容となった。 教育保育内容についてより質の高い検討実践がなされ、職員の意識も高く保っている。 特に桜木小学校との連携については深まりが見られ、スムーズな就学支援にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の事務負担や労務管理を中心としたICTの導入について、あまり進捗が見られなかった。 保育内容の理解や実践について、園全体の底上げがまだまだ必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き質の高い教育保育内容を継続し、職員間の共有と保護者との共感が得られるように質の向上と情報の発信に努めたい。 ICTの導入について、実践へとつなげられるような計画をたてる必要がある。

＜評価方法＞
 十分理解できている(十分できている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果

回答人数		23		人		
評価	1回目					ポイント
	◎	○	▲	×	×	
I 園の基本姿勢について(10項目)	97	93	36	4		2.23
II 第1章 総則(35項目)	319	278	169	38		2.09
第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項(30項目)	266	265	131	28		2.11
第3章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項(20項目)	158	187	106	6		2.07
III 園独自の取り組みについて(5項目)	58	38	18	1		2.33
						2.17

レーダー

